



◆長澤 龍夫 議員

**問** 村前道路の整備については、当初アクセス道路は村西道路を整備し通行する計画であったか。

**答** 地元住民の要望書のもとに公安委員会と協議し決定する。



養老SAスマートIC上り線入口付近

**問** 宇田大通寺前信号から西進する大型車通行禁止の標識の設置は、

**答** 一般県道の地方幹線道路を経由する誘導計画が国交省、岐阜県等と協議の上、「承認を得ている。」

**問** アクセス道路の誘導標識は、

**答** 養老SAスマートIC設置については、地元橋爪区を中心に設置対策協議会を平成24年12月に設置、関連機関と協議しいよいよ開通の運びとなるが、交通事故や防犯率等の増加、また子ども達の登下校が危険にさらされることへの不安がある。

※ここで示す村前道路とは、橋爪地区と養老SAの間の道路すなわち、養老SA北側の道路を指す。

### 町長 開通後の状況を考慮し対応

## 養老SIC周辺の安全策は



◆水谷久美子 議員

**問** 地方債発行・基金活用・一般財源に配慮した財政運営を。

**答** 町税など一般財源確保と、地方債の発行の実施事業の精査と年度間調整により平準化を図る。

**問** 最低限担保すべき基金残高を明確にし町民の願いに叶える基金活用を。

**答** 住民一人当たりの基金残高は県内で低く、減少傾向でもある。標準財政規模の10%に留意し、町税の徴収強化や経常経費の削減に取り組む。

**問** 広報養老に掲載する予算・決算は、動態等で町民に分かり易い掲載に。

**答** 町民アンケート実施中で、その結果も踏まえホームページ活用などと合わせて検討したい。

**問** 中期的計画を精査した単年度の目標厳守財政計画の予算編成になっているか。

**答** 単年度財政計画は作成していないが、例年「予算編成方針」を定め全職員に周知し留意点を示している。施設の大規模改修などは、長期的視点で重要性、緊急性を精査し予算計上している。

## 持続可能な行政計画を

### 町長 地方債発行の平準化を図る

平成26年に実施した住民アンケートでは、今後町が取り組むべき重点施策として、多くの年齢層で財政運営と回答している。町民一人当たりの地方債残高は、約50万円（一般・特別会計）となり、次の世代に健全財政を保障する責務がある。

## 認知症支援対応条例を

### 町長 他市町の情勢踏まえ今後検討



導入されたタッチパネル「物忘れ相談プログラム」

**問** (仮称)認知症に対する不安のない町づくり条例の制定を提案するが。

**答** 現在取り組んでいる認知症施策を重視し、新年度も予防に特化した教室を開催。条例化は今後検討したい。

**問** 認知症の人が第三者を負傷等させた場合に対応する公的救済制度保険の加入見解は。

**答** 国の公的救済制度への進捗が見られず、情勢に注視したい。

介護家族の監督責任が最高裁判所で問われた愛知県大府市の鉄道事故。本人や介護者家族を含めきめ細かな安心策を町も地域社会も講じることは、大きな課題である。

## 象鼻山古墳群の駐車場等は

### 町長 現在では実施できない

象鼻山古墳群は、2世紀後半(弥生時代末期)造成され70基の古墳群があり1号古墳は3世紀後半に築造、全国でも最古級の前方後方墳である。被葬者は『三國志』魏志倭人伝にも記述がある邪馬台国と狗奴国に深く関わる人物であるとされ、全国から見学者が訪れ、地元小学校でも学習拠点となっている。

**問** 登山道付近の駐車場整備は。

**答** 駐車場を整備しても牧田・室原線の県道を横断することになり危険である。歩道橋整備は財政面において非常に難しい。

**問** 古墳群への登山道整備は。

**答** 登山道は林道なので倒木処理や豪雨等による林道補修には町で対応するが、抜本的な整備は県と協議する。

**問** ボランティアガイド開設の考えは。

**答** 今年度、観光ボランティアガイドの養成講座を開催し、その育成を図っている。今後は象鼻山古墳群等の文化財の案内にも対応できるようボランティアガイドを育成していきたい。